

平成 30 年度第 4 回古賀市スポーツ推進審議会【地域部会】 会議録
(要約筆記)

(事務局)

- ・地域部会資料の差し替えは橋本座長と話し合い、事前配布資料分には書き加えた分である。
- ・「ひと」枠の連携組織は、知的障害は「親の会」、身体障害は「障がい者の会」、精神は「なのみ工芸」を書き加えて欲しい。

(座長)

- ・差し替え説明の確認を行いながら部会を進め発表時の資料にしたい。
- ・「ひと」について、10年後の姿、取り組みについての意見を出して欲しい。

(委員)

- ・中学校運動部活動の先行きで、教職員が担えるのかを考えた時、働き方改革もあり部活動指導はますます難しくなる。
- ・古賀市をスポーツで活性化していくのに小学生、中学生のスポーツをどうしていくのかは大切なことだと思う。コーディネーターと指導者の育成に課題があると思う。

(事務局)

- ・部活で競技的要素を求める者と楽しむスポーツとして娯楽的な趣味趣向を求める者が共存できるものはあるのか。

(委員)

- ・競技趣向型と仲間づくり・健康づくり趣向型があったり、指導者の多様化と保護者の趣向がマッチできたりする選択があればよい。スポーツに取り組もうとするための運動部が必要だと思う。

(委員)

- ・学校の先生だけではできない。直方市教育員会では部活はどこに行っても良い仕組みになり、実践している。古賀市の方向性が必要である。

(座長)

- ・部活に対する子どもの多様なニーズに対応できる環境整備が必要である。

(委員)

- ・中学校体育館で多様な対応は難しいが曜日選択などで使用割次第では可能になる。
- ・生涯スポーツにつながる部活動を選択できる中学生の姿が見えてくると良いと思う。

(委員)

- ・子どもの多様なニーズに応える指導者の育成や制度ができていると良い。
- ・1年生の時は同じ部活で段階や願いで取り組みを選択できる仕組みができると可能性が生まれてくる。

(事務局)

- ・情報入手について、民間や他機関などの情報がインターネットでつながる方法はないか。

(委員)

- ・スポーツに関心がある人が古賀市のホームページの生涯学習推進課にアクセスするとスポーツ推進委員、体育協会へリンクでき、体育協会から民間にアクセスできると良い。
- ・アクション福岡もアビスパやスポーツ店の広告費を認めバナーを貼っている。収益の作り方の一つとして体協が取り組み、一つの情報から多くの情報へ広がるメリットが生まれる。

(座長)

- ・ニーズに合わせた部活運営ができる指導者育成の方法について、意見を出して欲しい。

(委員)

- ・子どもが最初にスポーツに出会う導き時のベーシックな基礎的な指導者が必要である。

(座長)

- 三分の一しか話し合えていないが、まとめたもので発表を行う。